

# 社有林「さがわの森」 J-クレジット創出を振り返って

2024年2月28日

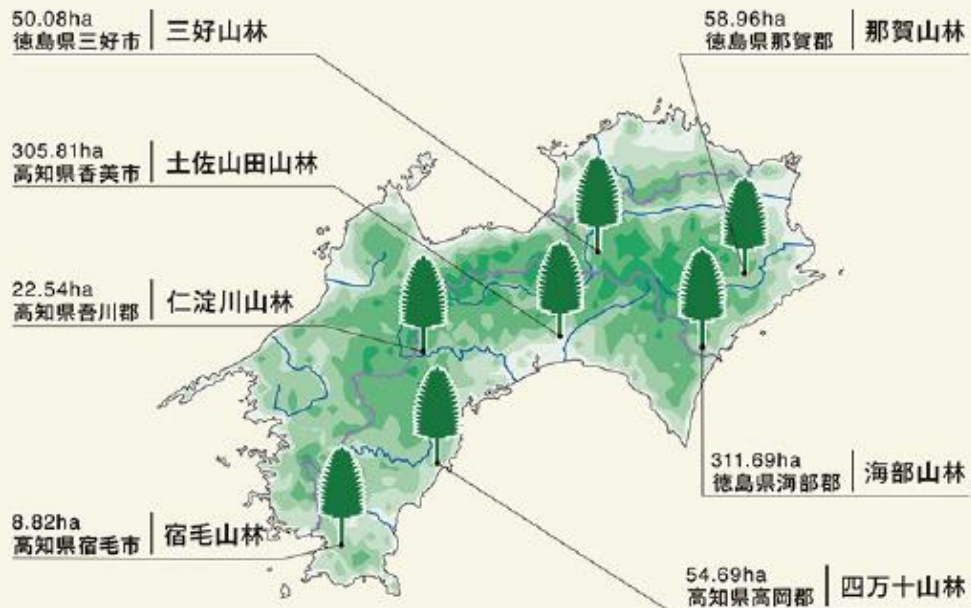
佐川林業株式会社

事業部 兼 管理部

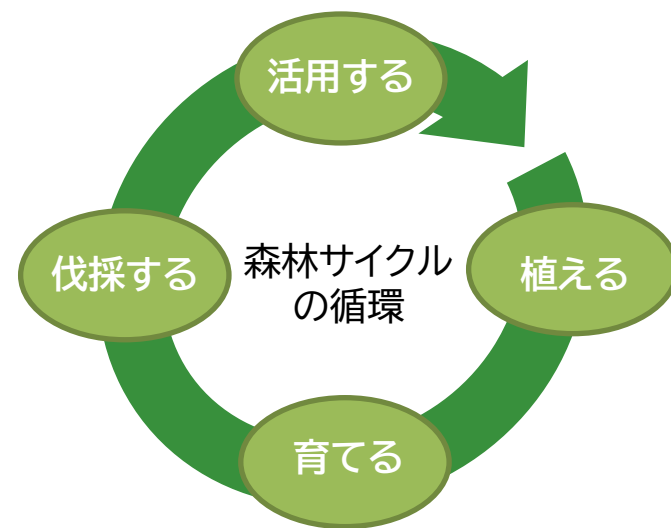
柿崎 礼樹

# 木のぬくもりと魅力を伝え、人と木を次世代へつなげていく

## さがわの森 DATA



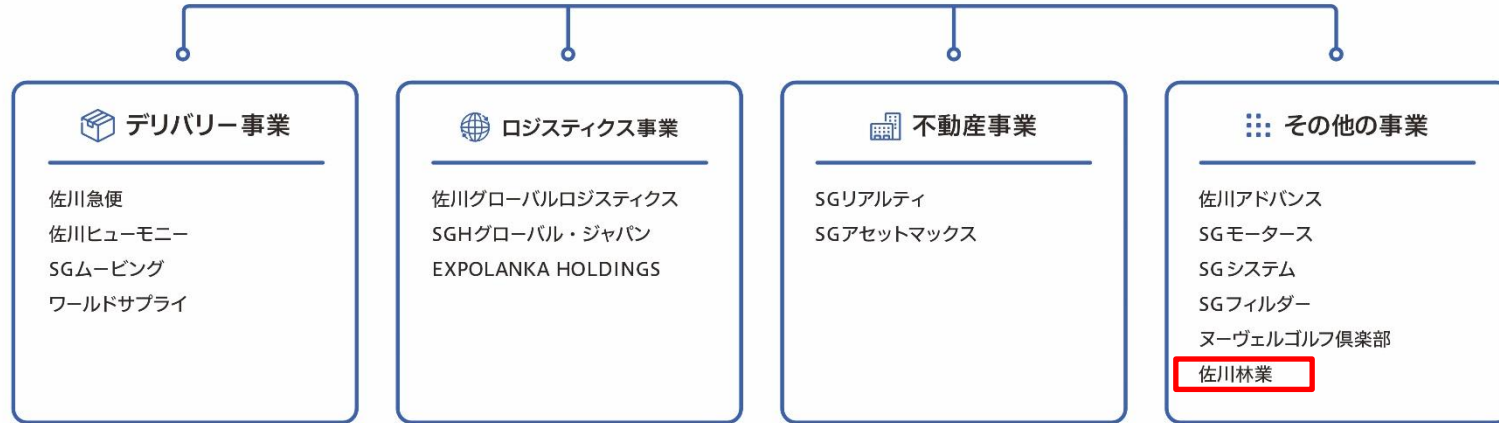
所有総面積 812.59ha(東京ドーム173個分)



# グループ概要

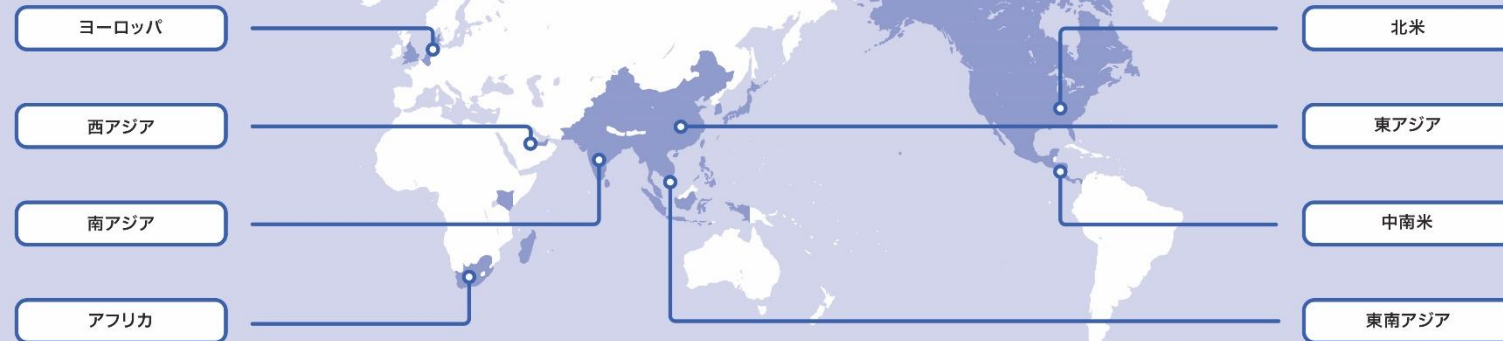
主要グループ会社

SGH SGホールディングス



## 海外 事業展開地域

36の国と地域



2023年9月30日現在

SGホールディングスグループは、  
 持続可能な社会の創造に向け、物流を担う事業者としての  
 社会的責任を果たすべく、ESGへの取り組みを積極的に実施



### ▶ カーボン・クレジットによるオフセット

佐川林業の保有林から創出したカーボン・クレジットを活用し、グループの事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量を一部オフセットしています。

クレジット種別	オフセットした排出量
	2022年度
J-クレジット SGHグループ高知・徳島山林長期経営プロジェクト	500 t -CO <sub>2</sub> e

※対象範囲:SGHグループの事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量(国内スコープ1+2)

SGホールディングス株式会社「ESG BOOK 2023」

## プロジェクト概要

プロジェクト名称	さがわの森(土佐山田山林) 持続可能な森林経営プロジェクト2023
登録申請日	2023年7月24日
認証対象期間	2023年4月1日～2031年3月31日(8年間)
プロジェクト登録地	高知県
プロジェクト登録面積	235.37ha
プロジェクト実施面積	118.85ha
プロジェクト実施森林の現況	人工林(スギ、ヒノキ)
他の森林所有者の状況	プロジェクト登録地には含むが、実施地には含まない

ポイント①(ノウハウの共有・継承)

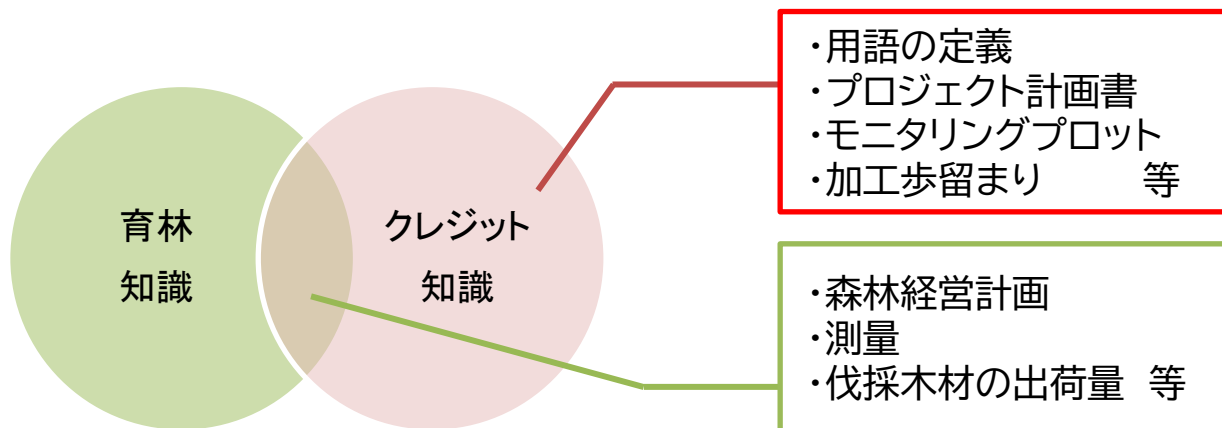
ポイント②(最新の制度理解)

ポイント③(登録地が遠方)

ポイント④(林齢)

## ポイント①(ノウハウの共有・継承)

育林で求められる知識と、J-クレジットの創出で求められる知識は完全には一致しない



クレジットの認証対象期間や永続性担保が長期にわたる一方で、プロジェクト登録、クレジット認証の頻度は少なく、ノウハウの共有・継承が困難

## ポイント②(最新の制度理解)

算定規定 ver	規程等改定日	有効期間
3.0	2022年8月10日	131日
3.1	2022年 12月19日	73日
3.2	2023年 3月2日	15日
3.3	2023年 3月17日	42日
4.0	2023年 4月28日	175日
4.1	2023年 10月20日	60日
4.2	2023年 12月19日	-

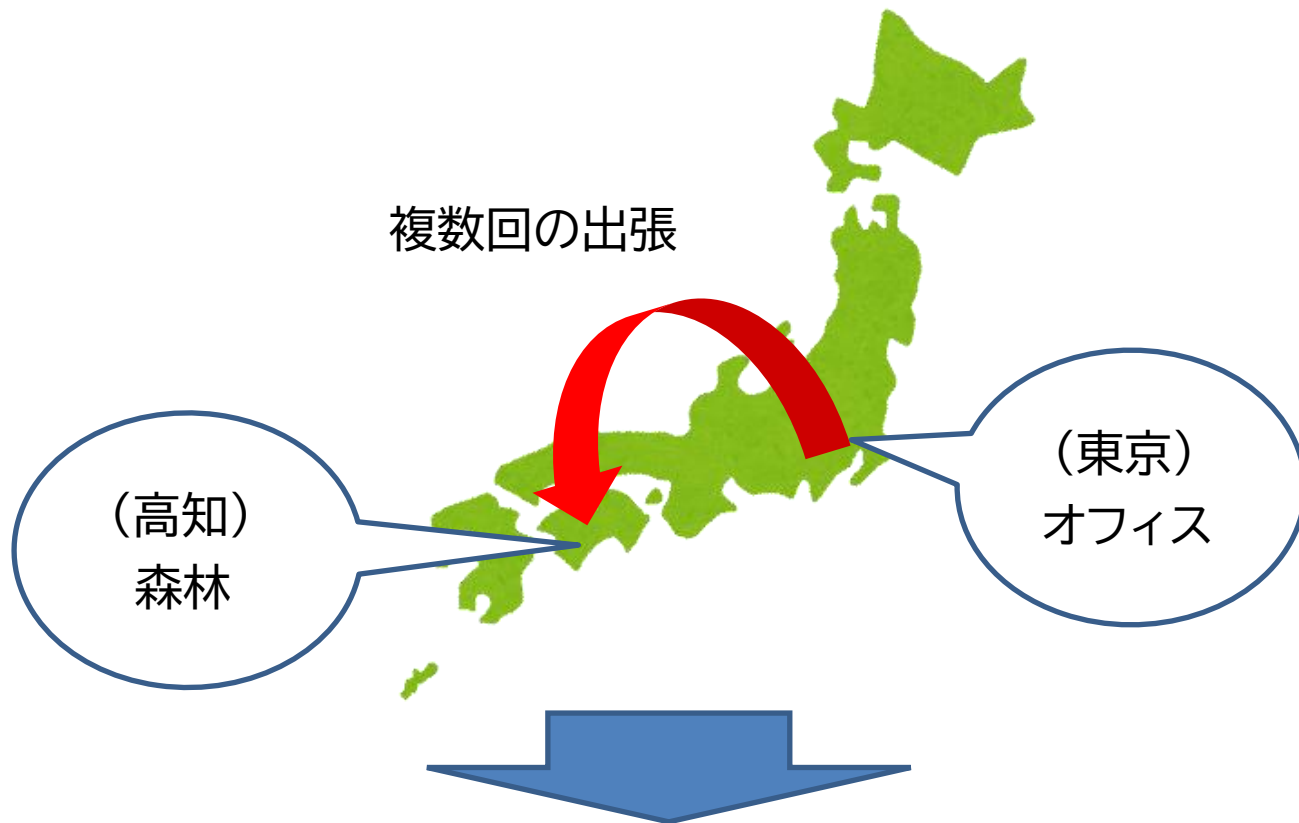
プロジェクト登録の検討  
 プロジェクト計画書作成  
 の時期に算定規程・方法論改定



モニタリングプロットの作成等のための現地調査や資料整理を  
 改めて実施しなければならない可能性がある  
 (業務委託している場合は、コスト増の可能性も)



## ポイント③(登録地が遠方)



プロジェクト計画書の作成に時間がかかるほか、  
現地審査が宿泊前提となるため、日程調整のハードルが高い  
(現地審査が雨天延期となった場合、大幅なスケジュール遅延につながりやすい)

## ポイント④(林齢)

間伐	プロジェクト実施地に含めることで吸収量をクレジット化
主伐	排出量としてカウントされるため、主伐の時期によっては吸収見込み量がマイナスになることがある
未間伐・未主伐	森林経営計画で施業が予定されていない場合、吸収量のクレジット認証は受けられない



タイミングを逃して間伐に適切な時期を超えた場合、クレジットの取得機会を逃す可能性がある

ポイント①(ノウハウの共有・継承)

ポイント②(最新の制度理解)

ポイント③(登録地が遠方)

ポイント④(林齢)

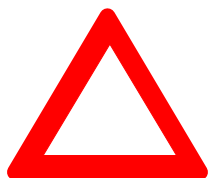
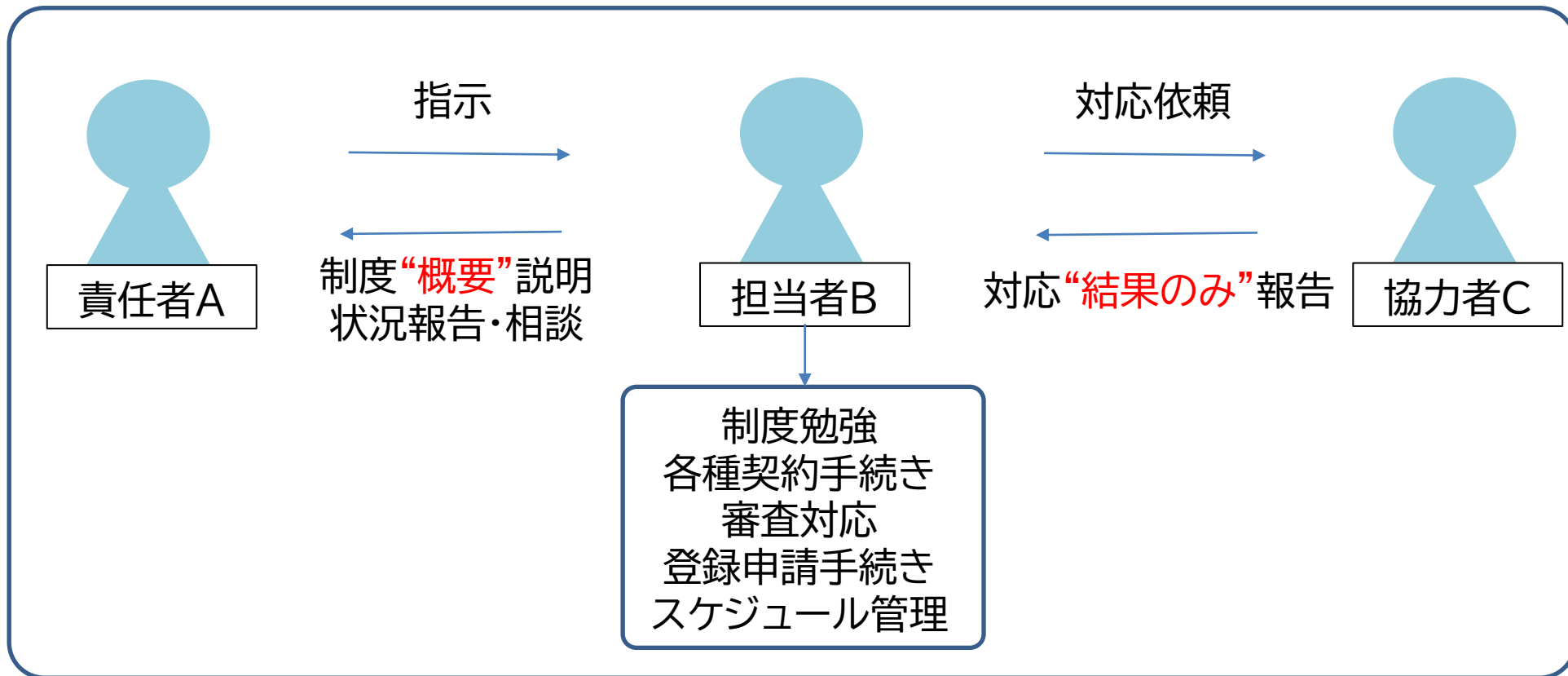
対策

関係者含む複数人で  
詳細な制度理解や情報共有  
ができるような体制づくり



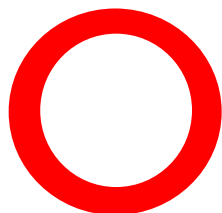
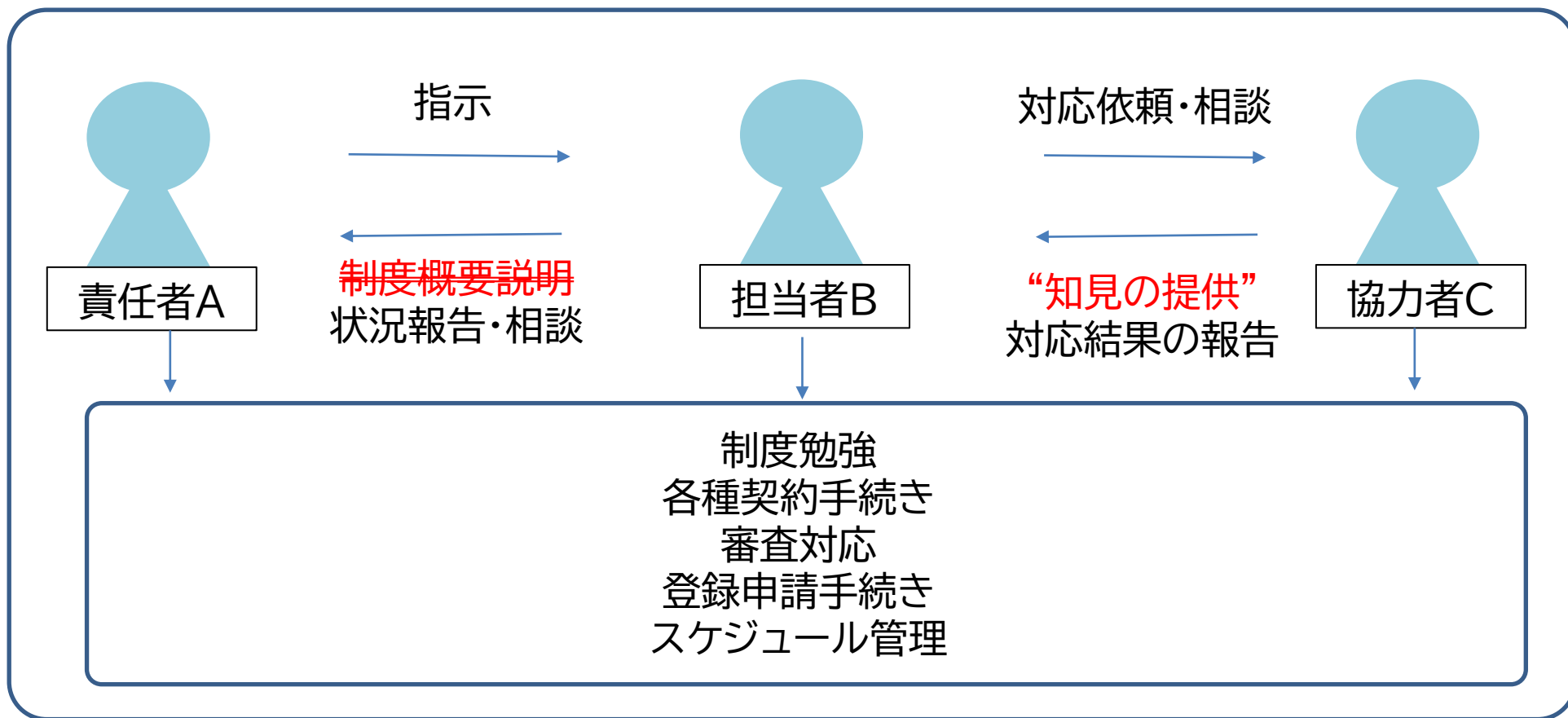
余裕のあるスケジュール確保

## プロジェクト登録にあたってのポイントの対策



担当者B以外、制度を正確に理解しておらずプロジェクト登録に不備が出るおそれ  
また今後担当者Bが不在になった際に、クレジット認証等に支障が出るおそれ

## プロジェクト登録にあたってのポイントの対策



関係者全員で知識やノウハウを共有することで、  
継続的かつ安定的な制度運用が可能に

ポイント①(ノウハウの共有・継承)

ポイント②(最新の制度理解)

ポイント③(登録地が遠方)

~~ポイント④(林齢)~~

同様のポイントが  
重要な要素のひとつ



プロジェクト登録がゴールでなく  
組織として、クレジット創出に向けて  
取り組みを続けていくことが必要